

思いを受けとめて

中島千恵子

園庭の桜の蕾がふくらみ始めるとまもなく新学期である。私達教師は、早く一人一人の子どものことを知りたい、わかりたい、気持ちを受けとめていきたいという思いを持って日々保育にあたっている。どの子どもも幼稚園生活を充分楽しんでほしいと願っている。

しかし、実際の保育場面では「どうしてこんなことをするのだろう」「どう関わっていったらいいのだろう」と思い悩むことが多い。毎日の保育の多忙

さに追われ、どうしてもこの子はちゃんとやらないだろうとあせったり、子どもの思いをおおらかに受けとめられないこともある。そんなかみあわない思いを明日こそは何とかしたいと思い、子ども達との生活を積み上げている。

どうやって関わったら

四歳児クラスのS男は、好奇心旺盛で見るとすべてに触りたくなり、そう思った瞬間にはもう手が

出ているというくらい行動が素早い。

乗っている子を押しつけて自転車に乗りトラブル。他の子が作った剣を持って行きトラブル。それをつぶしてトラブル。通りすがりにたたいたり、皆が集まる時にそばにいる子を押しつけていやがられるという毎日であった。感情が高ぶると攻撃的になることもあった。幼稚園に来てかなり興奮状態になり、友達と関わりたいという気持ちで触ったり押したりしていた。

またこの頃の園生活は教師の手がいくつあっても足りない状況で、とにかくトラブルを制する言葉が多くなっていた。担任も何とかしたいという思いを持ち続けており、他の教師達も何とか担任をサポートしたいと考えていた。

格好いいの作ったね

ある雨の日、保育室内での遊びの様子を見に行つた。S男は製作コーナーで牛乳パックを使って作る

うとしていた。うまく鋏で切れないらしくや表情がたかくなっていた。隣で作っているT男に話しかけながらそばに座ると、「ねえ切って」と言う。

「どこを切るの?」と聞くと「ここ切って」と牛乳パックの下の方を指さす。「何作るの?」と聞くと答えはない。「ここ切るのね。ちよつとかたいなあ。

これはかたくて大変だったね。こっちなら自分で切れるだろうけど」と言いながら鋏で切る。S男は「かたくてできないんだよ」と言う。すぐにもう一個持ってきて「切って」と言う。「同じ所?」と聞くと「うなずく。」

S男は切った二つの牛乳パックをセロテープで貼ってつなげようとするがうまくとまらない。「つなげるんだつたらここここに貼るといいよ」と二つの切り口を指さしながら言うと、ちよつと考えて言われた場所にセロテープを横向きに貼る。しかし取れてしまう。「取れちゃうなら横じゃなくて縦に貼るといいかも」と言うと、すぐに向きを縦に変えて

二本貼る。腕の中に通すが剥がれそうになる。「もう少し貼るといいよ」と言うと、S男はセロテープを切り横向きに貼ろうとして「あつ」と気が付き縦向きに貼る。

「ぐらぐらしないか確かめてみて」と言うと、触つて「まだ」と貼る。「どう大丈夫?」と声をかける。S男は貼つてからまた触つて「まだ」ともう一度貼る。「今度はどう?」と声をかける。S男は五本貼つて確かめて「できた」と見せたので、「うん。しっかり付いたね」と言う。

隣のT男がベルトを作り星を付けていたので、「S男くんも星を付ける? 格好いいじゃない」と言うが「しない」と言つて立ち去つた。

しばらくすると、S男はセロテープの輪の上に付けスコップにし、狙い撃つ真似をしながら見せに来た。「おつ、すごいね。そこから狙うのか」と言うのと喜んで撃つ。「やられた……」と教師が床に倒れると笑う。何回も繰り返し返す。そこにS子が近づくと

教師がまた撃たれて倒れるとS男は「おかしいね」と言いここに。「私もできるよ」とS子が教師の真似で倒れる。S男の表情がちよつとかたくなるが、教師が「あら、S子ちゃんは倒れ方が上手だわ」と言うと、今度はS子を撃つ真似をする。何回か繰り返し返す。また教師の方に向かって来たので「ねえ、今度はこれを撃つてよ」と箱を示す。S男はちよつとつまらなそうな表情で箱を撃つ。撃つた瞬間に教師がばつと箱を上投げると「わお!」

そこへ担任の教師が来たのでS男と二人で見せる。「S男くんすごい。格好いいの作つたし、面白いね」何回か繰り返し返す。

そして、S男は歩きながら大きな箱で作っているK男を見て「いいのだね」と声をかけた。



この日はたまたまじっくりS男の遊びに関わる
ことができた。最初に牛乳パックが切れないS男の困
難さに共感できたことが良かったように思う。

この中で、S男はイメージをしっかりと持っている
こと、目的に向かって邁進すること、ちよつとした
ことですぐに感情が動くが教師の一言や手助けのタ
イミングがあうと落ちつくこと、満足感があると友
達にもおおらかに接することなどが改めてわかっ
た。また、S男のしていることを教師がよく見てこ
まめに言葉かけし、本人が意識して行動していくよ
うにしたり、周りの子どもにわかるように伝えたり
していかなければならないことも感じた。

迎えに来た母親と出会った時にS男が頑張つて製
作し楽しく遊んだことを伝えた。

あのことを言つてね

次の日は降園前に保育室へ行った。皆が集まる時
間は、一日の中でS男への注意が多くなりやすい時

である。S男は最前列に座っていた。すぐ立つてく
るりと歩き回り同じ場所に座ろうと戻つて来たが、
元の場所は周りの子ども達が寄つて来て狭くなり入
れそうもなかった。しかし、入りたいので元の場所
を見据えながら最前列に寄つて行った。割り込むか
と見ていると、ちよつど担任が絵本を読み始めた。

S男はたまたま少しあいていた後ろの場所にすく
座つた。そこで「前に割り込まないで我慢して後ろ
に座つたのは偉かつたね」と声をかけると喜んだ。

絵本の話が終わるとそばに来て「ねえ、あのこと
言つてね」と言う。何のことかすぐに理解できず
「あのことって何のこと？」と聞くと「我慢して偉
かつたこと」と答える。「ママに言つて欲しいって
こと？」と聞くと「そう」

前日母親に遊びの様子を伝えたことが家庭で話題
になったのだろう。また認められたい、褒められたい
というS男の気持ちを実感した。教師は常に子ども
の行動に目を配り、小さな変化を見つけ丁寧な対

応をしていくことが大切なのだ」と再確認した。

この日は、本人が一緒にいる時に母親に伝えようと思い、帰るのを門前で待っていた。呼びとめてからS男に「今日何のことをママに言うんだっけ？覚えてる？」と聞くと、S男は小声で「後ろに座ったこと」と言った。

心に寄り添って

担任はS男の遊びになるべく関わっていき、楽しさを実感できるようにしている。まだトラブルは多いが、担任の言葉を少しずつ聞くことができるようになったと感じている。これからもあせらずにS男の心に寄り添い育ちを支えていきたいと考えている。

自分中心の気持ち強い子どもは友達の中にあるとトラブルになりやすい。教師はどうしてもトラブルの際に注意するという関わりが多くなりがちである。しかし、うち消される経験ばかりでは子どもと

教師との信頼関係は築きにくくなる。信頼関係がないと教師の助言や助力は子ども心に響かない。

また、感情的になったり気持ちがこじれてしまったりするとなかなか修復するのが難しいこともある。

ネガティブな面ではかりでなく、遊んでいる時などになるべく教師から関わりその子の思いに共感していくようにしたい。教師が手を添えていくことでまず満足感や楽しさを味わえるような援助を心がけていきたいと思う。

保育の場面ではなかなかその時間を確保することは難しい。しかし、教師が意識して接していくことで、確実に子どもと共感できる瞬間は生まれ増えていくのである。

(千葉大学教育学部付属幼稚園)